

出題形式別の問題数(過去10年)

回(年)	問1		問2		問3~4		問5		問6		問7~8		合計	
	問題数	割合	問題数	割合	問題数	割合	問題数	割合	問題数	割合	問題数	割合	問題数	割合
84 (平成11年)	27	11.3%	5	2.1%	1	0.4%	47	19.6%	143	59.6%	17	7.1%	240	100%
85 (平成12年)	13	5.4%	15	6.3%	1	0.4%	101	42.1%	96	40.0%	14	5.8%	240	100%
86 (平成13年)	16	6.7%	11	4.6%	1	0.4%	125	52.1%	66	27.5%	21	8.8%	240	100%
87 (平成14年)	7	2.9%	4	1.7%	0	0.0%	145	60.4%	57	23.8%	27	11.3%	240	100%
88 (平成15年)	11	4.6%	10	4.2%	0	0.0%	136	56.7%	61	25.4%	22	9.2%	240	100%
89 (平成16年)	5	2.1%	17	7.1%	0	0.0%	132	55.0%	63	26.3%	23	9.6%	240	100%
90 (平成17年)	18	7.5%	13	5.4%	1	0.4%	143	59.6%	55	22.9%	10	4.2%	240	100%
91 (平成18年)	14	5.8%	8	3.3%	0	0.0%	143	59.6%	61	25.4%	14	5.8%	240	100%
92 (平成19年)	17	7.1%	6	2.5%	0	0.0%	146	60.8%	53	22.1%	18	7.5%	240	100%
93 (平成20年)	15	6.3%	3	1.3%	0	0.0%	153	63.8%	55	22.9%	14	5.8%	240	100%

問1 次の基本骨格のうち、レセルピン、リゼルグ酸ジエチルアミド (LSD-25)、セロトニンなど精神機能に関連深い物質の化学構造に共通するものはどれか。

- 1 ステロイド 2 イソキノリン 3 ピリミジン 4 イミダゾール
5 インドール

	11年 (84回)	12年 (85回)	13年 (86回)	14年 (87回)	15年 (88回)	16年 (89回)	17年 (90回)	18年 (91回)	19年 (92回)	20年 (93回)
問題数	27	13	16	7	11	5	18	14	17	15
割合	11.3%	5.4%	6.7%	2.9%	4.6%	2.1%	7.5%	5.8%	7.1%	6.3%

問2 薬剤師に関する記述のうち正しいものはどれか。すべてが誤っている場合は解答用紙の5の をぬりつぶせ。

- 1 薬剤師は、いかなる場合にも、本人の意志に反していったん与えられた免許を取り消されることはない。
- 2 薬剤師国家試験に合格した者は、すべて申請により薬剤師免許が与えられる。
- 3 薬剤師は、その住所地を変更した場合には、薬剤師名簿の訂正を申請しなければならない。
- 4 薬剤師は、免許証を破り、よごし、又は失ったときは、免許証の再交付を申請することができる。

	11年 (84回)	12年 (85回)	13年 (86回)	14年 (87回)	15年 (88回)	16年 (89回)	17年 (90回)	18年 (91回)	19年 (92回)	20年 (93回)
問題数	5	15	11	4	10	17	13	8	6	3
割合	2.1%	6.3%	4.6%	1.7%	4.2%	7.1%	5.4%	3.3%	2.5%	1.3%

問3～4 第I欄の記述は脂肪の消化と吸収に関するものである。□の中に
いれるべき字句は第II欄のどれか。

第I欄

食物中の中性脂肪は胃においても一部消化されるが、その大部分は小腸に至り膵
液中のリパーゼの作用を受け、主として □問3 □ と脂肪酸に加水分解される。
これはさらに □問4 □ によりミセルを作り、小腸粘膜に吸収される。

第II欄

- 問3 1 グリセリン 2 1-モノグリセリド
3 2-モノグリセリド 4 1, 2-ジグリセリド
5 1, 3-ジグリセリド
- 問4 1 アミロペクチン 2 コレステロール 3 胆汁酸塩
4 ビルルビン 5 ポリペプチド

	11年 (84回)	12年 (85回)	13年 (86回)	14年 (87回)	15年 (88回)	16年 (89回)	17年 (90回)	18年 (91回)	19年 (92回)	20年 (93回)
問題数	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0
割合	0.4%	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%

問5 次の記述はけい光光度測定法に関するものである。正しいものの組合せはどれか。

- a けい光光度測定法において、けい光波長は励起波長より短い。
b けい光光度測定法において、けい光波長は励起波長より長い。
c けい光波長と励起波長との長短は、物質によりまちまちである。
d 励起波長が変化すると、放射するけい光波長も変化する。
e 励起波長が変化しても、放射するけい光波長は物質固有で変化しない。

- 1 (a, d) 2 (a, e) 3 (b, d)
4 (b, e) 5 (c, d) 6 (c, e)

	11年 (84回)	12年 (85回)	13年 (86回)	14年 (87回)	15年 (88回)	16年 (89回)	17年 (90回)	18年 (91回)	19年 (92回)	20年 (93回)
問題数	47	101	125	145	136	132	143	143	146	153
割合	19.6%	42.1%	52.1%	60.4%	56.7%	55.0%	59.6%	59.6%	60.8%	63.8%

問6 粉末薬品の混合に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 粉末薬品の混合は、粉末の真の比重に近いほど容易である。
- b 粉末薬品の混合は、いかなる場合も混合を長時間行うほど混合度がよくなる。
- c 混合度を測定するため、3次元的不作為に採取したN個のサンプル中の薬物濃度を測定し、仕込濃度（真の平均濃度 W/W ） \bar{C} よりの分散 σ を算出した。この σ が $\bar{C} (1 - \bar{C})$ の値に近いほど混合度は良い。
- d 粉末薬品の混合は、粒子間の結合性、付着性が小さい場合には粒子径に近いほど容易である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	誤	正

	11年 (84回)	12年 (85回)	13年 (86回)	14年 (87回)	15年 (88回)	16年 (89回)	17年 (90回)	18年 (91回)	19年 (92回)	20年 (93回)
問題数	143	96	66	57	61	63	55	61	53	55
割合	59.6%	40.0%	27.5%	23.8%	25.4%	26.3%	22.9%	25.4%	22.1%	22.9%

問7 次の生薬群 a ~ d とその共通性ア~エとの正しい組合せはどれか。

- a インチンコウ、コウカ、ソウジュツ
- b キキョウ、セネガ、モクツウ
- c アロエ、センナ、ケンゴシ
- d モッコウ、サイコ、ビヤクシ

- ア 根部が薬用部位である。
- イ 下剤として用いられる。
- ウ サポニンが主要成分である。
- エ 基原植物がキク科に属する。

	a	b	c	d
1	ア	イ	ウ	エ
2	エ	ア	イ	ウ
3	ウ	エ	ア	イ
4	イ	ウ	エ	ア
5	エ	ウ	イ	ア

問8 64歳の男性、頻尿、尿線途絶があり、診療所を受診した。初診時の身体所見は、身長 168 cm、体重 58 kg、脈拍 76 /分、血圧 118/79 mmHg、体温 36.6 °C、直腸指診で腫瘍を認めた。血液検査の結果は、白血球数 7,800 / μ L、血清クレアチニン 0.8 mg/dL、尿素窒素 18 mg/dL、PSA (prostate specific antigen) 2.0 ng/mL、CEA (carcinoembryonic antigen) 2.0 ng/mL であった。

この患者の病名として考えられるものと、その治療薬の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

- 1 直腸癌 ————— ブスルファン
- 2 腎不全 ————— クエン酸カリウム・クエン酸ナトリウム水和物
- 3 腎結石 ————— ジスチグミン臭化物
- 4 前立腺肥大 ————— ナフトピジル
- 5 前立腺癌 ————— テストステロンプロピオン酸塩

	11年 (84回)	12年 (85回)	13年 (86回)	14年 (87回)	15年 (88回)	16年 (89回)	17年 (90回)	18年 (91回)	19年 (92回)	20年 (93回)
出題数	17	14	21	27	22	23	10	14	18	14
割合	7.1%	5.8%	8.8%	11.3%	9.2%	9.6%	4.2%	5.8%	7.5%	5.8%